

開講年度	令和6年度	開講課程	博士後期課程
授業名	地域医療課題特論Ⅱ		
開講キャンパス	紀三井寺・伏虎	教室	基礎教育棟3階講義室3 中講義室303
科目区分	ベーシック科目	配当年次	1年次
必修・選択の別	選択	単位	1単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	社会基盤、ICT利活用、災害医学、地域医療、周産期医学、アンチエイジング、オーラルフレイル、小児医療、地域薬局		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	講師 山野貴司、准教授 上田健太郎、教授 井篁一彦、教授 廣西昌也、教授 松村達志、教授 徳原大介	
	薬	教授 岡田 浩	
授業の概要	本県における地域医療の現状や救急医療、周産期医療などについて学び、地域の保健医療課題に対する理解を深めるとともに、自ら課題を発見する能力や幅広い観点から考察する能力の基盤となる知見を修得する。		
到達目標	<input type="checkbox"/> 全国有数の高齢化県である和歌山県の地域医療課題を抽出し、今後の課題を理解する。 <input type="checkbox"/> 社会基盤の変化に対応するための地域医療の役割を理解し、今後の医療計画の検証を行うことができる。 <input type="checkbox"/> 災害医学の重要性を理解し、災害時の各自対応を修得する。 <input type="checkbox"/> 本県の地域医療における周産期診療や出生前診断の重要性、小児地域医療・救急医療の現状と社会的問題について理解する。 <input type="checkbox"/> 口腔環境とアンチエイジングについて高い知識レベルで理解する。 <input type="checkbox"/> 地域医療における薬局の果たす役割の重要性について高い知識レベルで理解する。		
授業計画	<p>1. 地域医療論B (山野貴司／1回) 【11/19 6限】 日本や和歌山県で医療格差を改善するために過去に実行された施策を学び、現在必要とされている社会基盤の変化との解離を理解する。日本や海外でのICTの利活用の事例を学び、今後社会サービスの一元化にむけて、そのサービスのひとつである地域医療がどのように携わるべきかを検証する。</p> <p>2. 災害医学への取組 (上田健太郎／1回) 【11/19 7限】 将来来る「南海トラフ地震」に対する和歌山県の取り組みを紹介し、各医療者の災害医療への取組を提示する。</p> <p>3. 周産期医療における妊娠高血圧症候群及び出生前診断の研究の基礎と応用 (井篁一彦／1回) 【11/26 6限】 本県における周産期医療の状況と課題及び出生前診断について解説し、地域医療に果たす産科医の役割の重要性や課題について理解し考察する。</p> <p>4. 社会の高齢化と健康問題 (廣西昌也／1回) 【11/26 7限】 全国有数の高齢化県である和歌山県の地域医療課題を抽出し、今後の課題について学ぶ。</p> <p>5. 歯科口腔外科とアンチエイジング (松村達志／1回) 【12/3 6限】 歯科口腔外科とアンチエイジングについて講義する。</p>		

授業計画	<p>6. 地域薬局におけるファーマシューティカルケアの拡大 (岡田 浩 / 1回) 【12/10 6限】 地域薬局におけるファーマシューティカルケアの拡大について解説する。</p> <p>7. 地域薬局におけるヘルスプロモーション (岡田 浩 / 1回) 【12/10 7限】 地域薬局におけるヘルスプロモーションについて解説する。</p> <p>8. 和歌山県における小児地域医療・救急医療の最近の動向と社会的課題 (徳原大介 / 1回) 【12/16 6限】 和歌山県内の小児地域医療・救急医療の現状 (疾病の有病率の年次推移、急病診療所受診割合、小児科医数など) や小児に関する社会的問題点 (虐待、不登校、肥満など) について統計学的データをもとに学び、本学附属病院小児科並びに各地域の総合病院やクリニックの小児科医との連携体制について理解し、現在の県内小児医療の問題点・課題に対する今後の取り組みについて考察する。</p>
授業の方法・形態	<p>講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。</p>
使用するメディア	<p>パワーポイント等によるスライド資料を使用する。</p>
成績評価の基準	<p>授業への取組20% (発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢) 及びレポート80%によりS (90点以上)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。</p>
授業時間外の学修に関する指示	<p>教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。</p>
オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)	<p>担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】 授業計画1 「地域医療テキスト」 監修：自治医科大学 出版社：医学書院</p> <p>授業計画4 「高齢社会白書」 (内閣府) https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html □</p>